

平成26年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)	
1 学力の向上 (1)家庭学習習慣の確立を通して基礎学力の定着を図る。	① 学習時間の調査を通して、自ら見直しを持って家庭学習に取り組む態度を育て、学習意欲の向上を図る。	家庭学習時間が学年+1時間以上である生徒が A:50%以上 B:40%以上 C:30%以上 D:30%未満	基準を達成した生徒の割合は、ほぼ1ヶ月毎に集計しているが、年間の平均で、 1年 16.7% 2年 2.4% 3年 7.4% 全校で 8.8%であった。 達成度:D	学習時間の平均値は増加傾向にあり、学習の必要性への意識はある。ただし左記の基準の達成度は低く、進学校としてふさわしい学習の絶対量が確保されるような学習習慣は形成されていない。今後も、目標のレベルを維持し、担任および教科担任による指導を根気よく行っていく。1、2年生については、3年生の進路決定の姿も紹介しながら、様々な観点から学習動機を提示していく。 家庭学習時間の確保に対する肯定的回答の割合 7月→12月 生徒(問4)60.4% [14.9+46.5] → 64.0% [16.8+47.2] 保護者(問5)46.8% [9.0+37.8] → 55.7% [11.7+44.0] 教職員(問4)77.9% [22.0+55.9] → 85.9% [26.3+59.6]	
	(2)日常的な課題を工夫して学習意欲と学力の向上を図る。	② 生徒の学力や理解度に応じて朝自習、週末課題、補習を行う。	親子ともに学習意欲が向上し学力が定着したと思う割合が A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	12月のアンケートでは、授業をとって確実に学力がついているとした生徒は、「よくあてはまる」「あてはまる」をあわせて75.8%であった。 達成度:B	学力の向上があつてはじめて進路の実現が図られる。学力定着については、保護者、教職員も以下のように評価は上がっている。今後も教師が与える授業、朝自習、週末課題、補習を通じて学習意欲が増し、学力が向上するよう指導していく。 学力定着に対する肯定的回答の割合 7月→12月 生徒(問6)72.9% [15.9+57.0] → 75.8% [16.6+59.2] 保護者(問7)62.5% [7.2+55.3] → 68.1% [12.1+56.0] 教職員(問6)74.6% [13.6+61.0] → 82.4% [14.0+68.4]
		③ 授業力のさらなる向上に組織的に取り組む。	授業力向上のための校外研修に年3回以上参加した教員の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	4～12月末までに授業力向上のための校内外の研修に3回以上参加した教員は87.5%であった。 達成度:A	大部分の教員が目標を達成している。平均も5.8回と高い数値である。授業力向上のためには、自ら授業のあり方を研究するとともに、他から学ぶ姿勢が大切である。教科ごとの校内研修会の企画や、他校や予備校における授業参観への参加など、引き続き取り組んでいく。 12月末までの研修会等参加回数(56名中) 3回以上49名 2回3名 1回4名 0回0名 56名の平均は5.8回
学校関係者評価委員会の評価		・③の研修会参加の回数は前回と比べて増加しており、先生方が頑張っており取り組んだという感想を持った。先生自身のやる気が、①の生徒の学習意欲、引いては②の学力向上につながると思う。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・今後とも教員が自己研鑽に努め、指導力を向上させるよう、積極的に研修の機会を利用するよう勧める。また、研修で獲得したものをよく消化し、生徒の実態に応じて自分の授業で生かせるよう促していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 人間性の向上 (1)遅刻を減らし基本的生活習慣の確立を図る。	① 10分前登校など各学年ごとに遅刻を減少させる取組を実施する。	遅刻の延べ人数が前年度と比較して A:20%以上減少した。 B:10%以上減少した。 C:10%未満の減少であった。 D:同数が増加した。	4～12月の遅刻者の延べ数は、 1年189(H25は171) 2年257(同272) 3年235(同248) 計681(同691)で 1. 4%減少した。 達成度:C	7月までは遅刻1～2回の段階で早めに担任から指導を行ったことで、生徒自身も遅刻防止に関する意識が高まり大きく減少したが、今回は微少な減少に留まった。回数の多い生徒の中には改善傾向にあるものもいれば、なかなか指導の効果の現れないものもある。下記のとおり、遅刻防止の意識は皆が持っており、時間を守ることは生活習慣の基本であることへの理解はあるので、今後とも全校を挙げて、根気よく、本人への指導と家庭との連携を積み重ねていく。 遅刻防止に関する肯定的回答の割合 7月→12月 生徒(問1)95.7% [83.8+11.9] → 95.2% [76.6+18.6] 保護者(問2)97.4% [77.2+20.2] → 95.6% [73.8+21.8] 教職員(問1)100% [72.9+27.1] → 100% [80.7+19.3]
(2)ボランティア活動に積極的に参加する生徒の意識を向上させる。	② ボランティアの意義や啓発の機会を通して、生徒の意識を向上させる。	ボランティア活動に参加した生徒の数は延べで A:600人以上 B:500人以上 C:400人以上 D:400人未満	4～3月の参加生徒の延べ数は、見込みも含め550である。(昨年度は411) 達成度:B	今年度は4月の伏見川清掃ボランティア以降、全校生徒に呼びかけて新しい試みも含めて行ってきたことで、生徒の意識が少し高まっていることがいえる。一方保護者、教職員の意識が7月に比べて低下しており、積極的な周知が必要である。 ボランティア活動は、本校の伝統的な活動であり、部活動や生徒会役員を参加単位としている。また今回の数字には表れなかったが、大雪の日の除雪作業には、校庭に留まらず付近の道路まで除雪する姿があり、ボランティア精神は確実に育っているといえる。この資質は、今後地域社会においても必要なものであり、今後も参加を広く呼びかけていく。 ボランティア活動や意識高揚に関する肯定的回答の割合 7月→12月 生徒(問11)45.7% [12.7+33.0] → 49.7% [14.8+34.9] 保護者(問12)79.6% [16.3+63.3] → 73.6% [14.9+58.7] 教職員(問11)88.2% [42.4+45.8] → 79.0% [28.1+50.9]
学校関係者評価委員会の評価				・学校へ来ると生徒の挨拶が気持ちがいい。特に男子に多く、野球部をはじめ元気のよい挨拶を交わしてくれた。先生方にも同様に明るい挨拶を交わしたい。 ・スポーツデーの40人41脚ではクラスがまとまり、勉強と一緒に取り組む友もできたと家で話してくれた。生徒が元気になる行事をさらに工夫してほしい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策				・引き続き遅刻指導や挨拶運動など、生活指導をしっかり行うことを通して、基本的な生活習慣を形成していく。 ・学校行事については、毎年見直しているが、単なる精選にとどまらず、クラスや学校全体の雰囲気盛り上げる工夫を行っていく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
<p>3 進路希望の実現 (1)将来を見据えたキャリア教育を実践し個に応じた進路指導を行う。</p>	<p>① 学年段階に応じたキャリア教育を実施し、質の高い面談をきめ細かく行う中で進路目標を考えさせるよう指導する。</p>	<p>本校の行うキャリア教育や面談指導が進路を考慮するうえで参考になったとする生徒の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満</p>	<p>12月のアンケートでは、キャリア学習が将来や進路を考慮するうえで参考になったとする生徒は、「よくあてはまる」「あてはまる」をあわせて72.6%であった。 達成度:C</p>	<p>生徒にとって自分の将来を考えることは、学習面や生活面のいずれにも大きな影響を及ぼす。その意味で、進路講話や総合的な学習の時間における取り組みが評価されることになる。今回は前回よりも数値は下がったが、現在取り組んでいることが将来を考える上で有益であるとの周知も含めて指導する必要がある。評価が高まっている保護者の意向も踏まえ、今後も、系統的で個に応じたきめ細かい指導を通じて、自らの進路を考えるよう指導していく。</p> <p>キャリア学習に関する肯定的回答の割合 7月→12月 生徒(問7)74.1% [22.4+51.7] → 72.6% [19.2+53.4] 保護者(問8)80.7% [14.5+66.2] → 82.9% [20.2+62.7] 教職員(問7)83.0% [28.8+54.2] → 91.3% [28.1+63.2]</p>
<p>(2)普通科高校として大学への進学指導を積極的に推進する。</p>	<p>② 大学入試センター試験を活用して大学を受験する生徒が増えるよう指導する。</p>	<p>センター試験の受験者が A:70%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満</p>	<p>1月17・18日のセンター試験受験者は166名(54.8%)であった。 達成度:C</p>	<p>現3年生について、4月の調査におけるセンター試験受験希望者は157名(51.9%)、10月のセンター試験出願者は169名(55.8%)、1月の本試験受験者は左記のとおり166名(54.8%)であった。昨年は143名(53.4%)。今後も、普通科進学校として、1、2年生のうちから見通しを持った進学指導を行い、センター試験が国公立大のみならず、私立大入試でも利用できるメリットを知らせ、受験者が増えるよう啓発していく。</p>
	<p>③ 推薦入試ばかりでなく、個別学力試験で合格するよう指導する。</p>	<p>国公立大学に出願する生徒の数が A:70人以上 B:60人以上 C:50人以上 D:50人未満</p>	<p>国公立大学出願者は26名であった。 達成度:D</p>	<p>現3年生について、4月の調査における国公立大学希望者は53名で、実際の出願者は左のとおり26名であった。昨年の24名とほとんど変わらなかった。今後も、入学時から高い進路意識を持たせ、それを維持する意思と確かな学力を育てつつ、系統的な進学指導を行い、普通科進学校として実績を積み重ねていく。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・女子高時代は、自立心の旺盛な女子生徒が多くいた。キャリア教育を行う中で、負けじ魂を育み、人生を貫く柱を生徒の心に育ててほしい。 ・特進クラス以外のクラスでも四年制大学を目指す生徒がおり、補習や勉強合宿に参加しやすい雰囲気を醸成してほしい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>・総合的な学習の時間やホームルーム等で、進路講話等を実施しているが、さらに卒業後、進学、就職した後、どのように社会人として生きていくのか、卒業生等を講師として呼び、ヒントとなるような話を聞かせるものを企画していく。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
<p>4 保護者や地域から信頼されるよう学校からの情報発信を行う。</p>	<p>① 本校HPの更新を増やし生徒の活動を外部に積極的に発信する。</p>	<p>本校HPの更新回数 A:60回以上 B:50回以上 C:40回以上 D:40回未満</p>	<p>1月末までの本校HPの更新回数は、120回(昨年度1月末で68)であった。 達成度:A</p>	<p>今年度のHPは、月行事予定や学年通信といった定期的なものを除き、学校行事における生徒の活動の様子や、高校総体・総文、新人大会などにおける部活動の報告をこまめに掲載したことで、HP更新回数は大幅に増加した。内容も、部活動報告に統一形式を取り入れたり、写真・イラスト等の採用により、分かりやすい紙面作りに努めた。 今後も生徒の姿を中心に情報を発信し、保護者や地域の人々はもちろん、中学生にも本校理解が進むよう取組を継続していく。また、HP更新回数やアクセス数に注目するばかりでなく、地域の回覧板を活用させていただき、チラシの配布等を通じた情報発信も行っていく。</p> <p>メール配信やHPを通じた情報発信に関する肯定的回答の割合 7月→12月 生徒(問12:たよりを渡す)77.4% [37.5+39.9] → 77.0% [32.4+44.6] 保護者(問13)87.9% [39.7+48.2] → 87.1% [37.1+50.0] 教職員(問12)94.9% [52.5+42.4] → 94.7% [49.1+45.6]</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<ul style="list-style-type: none"> •HPの取り組みは評価したい。加えてこの地域で小学校、中学校の9年間の次にある高校として、信頼感、安定感を感じている。夏のマーチングバンドと吹奏楽部のコラボなど、児童生徒が互いに顔の見える交流はアピール度も高く、地域への発信となる。 •中学では専門的指導者が不足しており、中高の部活動の交流も考えられるのではないかな。 •5年ほど前と比べてここ数年は、高校生の通学の様子などに対し、地域からの評価の声をよく聞く。 •達成度判断基準は設定が厳しい気がする。分析などに前年比を用いると分かりやすい。 		
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>		<ul style="list-style-type: none"> •HPは中学生の目を意識して作成し、部活動を中心に本校の様子が分かるものを心がけた。携帯・スマホの時代にあって、互いに顔を見、声を聞いて交流することのよさを伝えられるような小中高や中高の連携を進める。 •具体的取組については、達成度判断基準や前年比を用いて分析し、評価しやすい形になるよう見直していく。 		